



本明寛先生追悼の記

理事長 田中宏二

一般社団法人日本健康心理学会名誉理事長、早稲田大学名誉教授 本明寛先生は、2012年12月6日94歳の生涯を閉じられました。ここに、謹んで哀悼の意を捧げます。

本明先生は、1918年(大正7年)に神奈川県川崎市でお生まれになり、1941年(昭和16年)に早稲田大学文学部心理学専攻を卒業されました。戦後、1945年(昭和20年)に早稲田大学文学部に勤務され、以後定年退職となる1989年(平成元年)まで、一貫して早稲田大学文学部にお勤めでした。

その間、研究・教育・学界・学術行政など、実に多彩な分野において顕著な貢献をされました。1960年(昭和35年)には「刺激効果と認知特徴による自我機能診断の方法に関する研究」により、文学博士(旧制)を文部省より授与され、1983年(昭和58年)に紫綬褒章、1988年(昭和63年)には勲三等旭日中受賞の栄に浴されました。学界においても1983年には日本心理学会理事長を6年間務め、我が国の心理学ワールド全体への発展に寄与されました。

とりわけ先生の晩年は、欧米において新しい学問分野として急速に台頭してきた健康心理学に心血を注がれ、我が国の健康心理学研究の普及と組織化に多大なご貢献をされ、1988年(昭和63年)に日本健康心理学会設立発起人代

表として学会を創設されました。当時は会員数145名で発足しましたが、以後、理事長として20年以上の長きにわたり、学会を牽引され、今日、会員数2,300名に達する我が国有数の心理系学会に発展する礎を築いてこられました。まさに日本健康心理学会の父として私たちを導いてくださいました。

先生の行動エネルギーは国内にとどまらず、1993年には国際健康心理学会議の開催、翌年には「世界の人々の健康増進のために」を目的に、国際健康心理学学会(ISHP)を会長(副会長：カプランAPA健康心理学部会長、マース欧州健康心理学会会長)として組織されました。また2000年8月には「健康と文化」をテーマに、初のアジア健康心理学会議を実行委員長として開催され、アジアにおける健康心理学専門家のグループ作りに力を尽くされました。これをきっかけにアジア健康心理学学会が組織され、およそ3年ごとのアジア健康心理学会議がアジア各国で開催されることになりました。本年8月には第5回大会が韓国デジョンで開催される予定で、先生のアジアに寄せる熱い思いは生き続けております。アジア会議の礎を作られた先生にご覧いただけないのが残念です。最後になりましたが、先生の学恩に感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

本明寛先生と健康心理学会

春木豊



1988年(昭和63年)に日本健康心理学会が設立され、本明先生が理事長になれましたが、本明先生がこのことを思い立たれた当時のことをよく憶えています。先生はロールシャッハ研究の泰斗であったホルツマン博士と親交があり、国際会議に出席された時に、博士から日本には健康心理学の学会があるかと聞かれ、驚かれたのでした。帰国後、われわれを集めて、直ちに学会を立ち上げるのだと檄を飛ばされたのでした。健康心理学の何たるかを全く知らないわれわれは大変戸惑いましたが、先生の熱意に圧倒されて、早稲田大学の一室で総勢20人もいたかどうかのメンバーで学会が設立されたのでした。その後矢継ぎ早に、平成2年12月には健康心理学をどのように体系づけるべきかの勉強のために、箱根に集まりました。これは1983年にアメリカ

の健康心理学者が集まり、健康心理学の将来について議論した、アーデンハウス会議になぞらえるものでした。設立の当初は、心理学者の中にもほとんど健康心理学の理解者は無く、学会としても大会を引き受けてくれるところが無く、本明先生は毎回奔走されました。

日本健康心理学会編「健康心理学辞典」(実務教育出版)、平成9年や同じく学会編「健康心理学基礎シリーズ4巻」(実務教育出版)平成14年も本明先生が先導されて学会を挙げて行った事業でした。

▶箱根会議



日本健康心理学会のあけぼの時代

山本多喜司



本明寛先生が理事長として日本健康心理学会を創設されたのは1988年(昭和63年)である。その頃先生は、臨床心理学が心の治療を対象としているのに対して、健康心理学は心・身・社の総合的立場から病気の予防と健康の維持・増進に貢献すべきであるという強い信念と使命感に燃えておられた。日ごろは、気さくで、優しく、気配りのあるご性格であったが、こと学会については驚くほど頑固で強いリーダーシップを発揮して仲間をリードされた。それを支えたのは、内山喜久雄先生と間宮武先生達である。

本明先生は1990年、大会委員長として第22回国際応用心理学会議を京都国際会議場で開催し大成功を収められたが、そのなかで健康心理学のシンポジウム7題に対して著名な健康心理学者30数名が世界各国から参加した。こ

れを端緒にして日本の健康心理学研究の水準の高さが国際的に認識された。その後、1993年早稲田大学での国際健康心理学会議にも欧米の主要健康心理学者が多数招待されて講演やシンポジウムが行なわれ、日本健康心理学会の国際化が急速に進んだのは、本明先生の偉大なる功績である。

ここに本明先生に感謝して心からご冥福をお祈りする。

▶2000年
アジア懇親会



想いのサンフランシスコ

野口京子



1991年の夏、1993国際健康心理学会議の準備のため、本明、間宮、山本、内山（喜）先生と、私の5人で、サンフランシスコのAPA大会に出かけた。「何としてでも大御所たちに来てほしい。先に行って様子を聞いてきなさい。」プログラムを調べ会場に行き、「日本で健康心理学会議を開催したいので」というと、手帳を見ながら首をかしげる様子に、「M博士も、H博士にもお願いしています!」抱きあわせ勧誘の戦略は功を奏し、1993年には健康心理学の重鎮が一堂に会した。

さて、4人の名誉教授の注文を何とか叶えたい。「街を一望できるところがよいね」「海の中で食事をさせてくれた弟子がいたそうだ」「名物料理は何かね」「霧のサンフランシスコっていうじゃないか」近くのホテルの最上階のガラス張りのレ

ストランを下見し、海も街も見える窓側を予約した。食事美味しく、「あと1つ、神様お願い」と祈ると、何と窓の外が一面乳白色の霧に包まれたのである! 会期中は観光にも出かけずひたすら会場に通った。配布資料をすべて大きなバックに入れ、引きずるようにして本明先生の後からホテルまで歩いた。レディーファーストの国でおかしな光景だったが、笑うと必死で持っている荷物が落ちそうで我慢した。

帰りは全員アップグレードのビジネスクラスで快適に帰国。添乗員、交渉係、雑用係の役目を無事果たした。後の国際学会で各国の健康心理学者との信頼関係も築いていく、その最初の仕事であった。

厳しく、また優しくご指導を受けた御恩を忘れず、思い出を力に前進していきたい。

Condolence

Joe Matarazzo



Ruth and I are saddened to learn of the loss of such an esteemed colleague. In my opinion, Professor Hiroshi Motoaki truly will be listed by historians as a giant among the great contributors to the profession and discipline of health psychology. And we recall with fondness our very first meeting in Tokyo with him, and with you serving as our host. It was a privilege to be with him as he, you and your colleagues founded the Japanese Association of Health Psychology; the catalyst for Asian Health Psychology. And we also fondly recall our other meetings with him in San Francisco and several other North American cities. Please share our sorrow with his family and your colleagues.

Condolence

Richard Evans



I share Joe Matarazzo's elegant comments about Dr. Motoaki's death I also shared the fine experience of meeting with him in Tokyo and at US meetings. Those of us who were involved to the development of the health psychology in the US as Presidents of the Division of Health Psychology in the American Psychological Association all were impressed at the developing international scope of health psychology and the impressive contribution of the Japanese Association of Health Psychology led by Dr. Motoaki and his colleagues. Please share my sorrow with his family and colleagues.

本明寛先生名言集

常識という態度とは、みかけの行動をいうが、
その行動を支える内面的なもの、心構えが本来の態度である。
これが傾向性として有効に働く力として役立つとき“態度能力”という。
“態度能力”が必要なのは、変化に対応できる力、
変化に対処するために準備された力が養えるからである。

態度能力は、人間が主体的に生きていくのに欠かせない能力である。
「生きる力」と呼べるものである。

自己の可能性を知ることは自信を生む。
そして、自信は事態を成功に導く大きな力となる。
能力は客観的にあるというより、
その人があると思う(自信を持つ)ことが肝心なのだ。

人生は、すべて数学と理論ではすまされない。
形(身体)に対する中身(人格)の入れこみ方、
形の充実によって個性がつくられ、
才能があらわれるのである。

どんな些細なことでもかまわない。
もっと素直に、自分の達成できる創造性に注目してみよう。
創造性は、創造的な心構えをもつことから生まれるのである。

人間の能力は、その人の意志によって開発される部分が大きい。
能力を先天的なものと考え過ぎるのは、
自己の能力を過大視(過小視)することにつながり、
人生の意義を見失わせる恐れがある。

柔軟なものの見方や考え方をするには、
どんな問題も自分に結びつけるということが第一歩なのである。

本当の他者への思いやり、他者との親和関係の大切さを
心の底から感じる源になるのが共感性である。
共感性を中心とする態度能力の養成が、
人と組織の今後を占めるカギとなるのである。

有機的な人間相互のつながりこそ、組織を活性化し、会社を発展させ、
そこで働く社員一人ひとりが「生きがい」を実感する基本になるのである。
形式にとらわれ、権威をふるうリーダーはもういない。

対人関係が円滑な人は心が開かれた人であり、
社会との接点をそれだけより多く持てる人である。
社会との接点をより多く持てる人は、
そうでない人よりも、よりうまく社会に適応できることになる。

ゆとりは自分でつくりだすものである。
自分自身を制御できるところに、ゆとりの心は生まれる。
それには、自己を反省し、自分をよく眺めてみる習慣を持たねばならない。

ゆとりの心をもつには、
社会という鏡のなかに映る自分の姿を冷静に見るようにし、
自分の姿を見失わないようにすることだ。

経営トップや上司からの信頼感が、
なによりもビジネスマンにとっての自信や自己効力感を育てるのである。
「できた」という満足感、そこから生ずる不自然な優越感は問題であるが、
「できるぞ」という自信は将来への展望を生み、
ビジネスのなかでは対人的な信頼感を育てるということを忘れてはならない。

もはや一流大学とか学業成績とかの条件は、
およそ小さな要因でしかない。
一人の秀才や優秀人間を発見するより、
チームワークによる大きな力、総合力を考えることを忘れるべきではない。

態度能力はわれわれが豊かな人生を築いていくのに
不可欠な能力なのである。

人と付き合うというのは、
人をからかったり、べたぼめしたり、おどかしたり、
制圧したりすることではなくて、心から相手を尊敬し、
愛そうと思うことから出発することである。

無邪気な子どもの心になって、自由にのびのびと、
とらわれない心境で新しいものを考え、実行してみることである。
それが創造性につながるのである。

本物になろうね！



本明先生との思い出

私が、本明寛先生との思い出で、一番鮮烈なことは、学会創立20周年記念特別企画 鼎談「日本健康心理学会20年の歩み」でのお話です。学会発足当時の熱意や我が国における健康心理学の理論的構築について、明確で、力強く、あくまでも紳士的に話になりました。私は、井深大記念ホールの最前列でお聞きしていましたが、その矍鑠としたお話に、あまりの感動で、つい目頭が熱くなったことを今でも鮮明に覚えています。

石原俊一

平成元年、第2回健心大会を東邦大学で引き受けるように、さらに特別講演の講師もタイトルも自由に決めてよいとの先生の指示を受け、大事にとっておいた新聞記事「昭和で三人目比叡山十二年麓山行を満行出迎える青年僧」を手に、すぐに延暦寺に電話し、「行と健康」のタイトルで講演を依頼した。当時の青年僧は60を過ぎ、貴重な難行苦行の話が聞かれるものと、大いなる期待で迎えた。私が司会進行を担当し、英賢師を誉めあげた。しかし意に反し、講演はまったくの期待はずれ、原稿を忘れてきたと言われ、話は師があった著名人だけの紹介で、難行苦行の成果は語られることなく聴衆の期待を裏切って終わった。本明先生から、あれは本当の坊主かと言われ、弁解の余地が無かった。本明先生も英賢師も既に帰霊され、そんな第2回大会を昨日のように忸怩たる思いで回想している。

稲松信雄

本明先生から学ばせていただいたこと。①常に最先端の情報を収集し、②締め切りを必ず守り、③人とのふれあいを大切に、④人の悪口は決して口にしない。⑤よく笑い、よく食べ、よく歩き、⑥いろんなことに感動する。70代半ばから油絵教室に通われたり、人生を愉しんでいらっしゃったお姿は感服あるのみです。

岩田明子

本明先生には、卒論・修論の副査としてご指導いただきました。しかし私は修論提出直前の11月中旬から1ヶ月間入院し、不出来な修論になってしまいました。口頭試問でのお叱りを覚悟していた私に、「ちょっと中途半端になっちゃったね」との一言の後、「でも、博士課程に進学するんでしょ？ そこでがんばってね」との温かいお言葉が。思わず泣きそうになりました。本明先生にかけていただいた激励のお言葉が、今でもずっと私を支えてくださっています。

大木桃代

本明寛先生のもと、事務局を16年ほどお手伝いしました。先生は人に対する配慮が大変きめ細かく丁寧でした。学会運営、国際学会等では先生方がいろいろな役職につかれます。そこで困ったことやミスをしたときにさりげなくカバーされ、その先、順調に進むように配慮されていました。もう一つ、私に「分をわきまえない」とよくおっしゃっていました。

折原茂樹

最初に優しくお声をかけていただいたのは、確か、学会の第4回研修会の時、「医療の場の健康心理学」(講師担当)に健康心理学を生かせなくてケチョンとしていた時でした。以来、半蔵門やパトンド・ルージュの研究所に出入りさせていただき、いつも寛大に見守っていただきました。感謝しつつご冥福をお祈りします。

木村登紀子

大学院時代の後半は先生の研究室へ出入りさせていただきながらじつに様々な事を学びました。来客のない時には議論の相手もしてくださいました。授業時間になると、わかった後でまた話そうと仰って教室へ向かわれました。夕食会にもゼミ生一同でよくお供させていただきました。みんなで一緒に過ごせることを嬉しく感じるいつも楽しい会でした。

木村裕

1998年秋、先生から突然の電話、「桜美林大学に健康心理学科を設置するとの情報を得たが、本当か、事実なら全面的に協力するから遠慮なく相談に来るように」とのことであった。それから先生のもとに足繁く通うことになったが、先生はあの温顔と大きい包容力で指導してくださった。お陰様で文科省の認可を受け、2000年4月に開設することができた。あの時のことが今も深く心に刻み込まれている。多謝。

久保田圭伍

本明先生は常に新しい学問動向に関心をもたれ、大学院生や若い研究者との研究発表などにも熱心に耳を傾けて楽しんでおられました。私の教え子なども幾度となく先生の前で研究発表をさせていただきましたが、「面白いね」などの先生の一言は彼らに勇気と自信を与えて下さいました。先生の気さくでオープンなお人柄に身近に接するよい機会でもありました。

小玉正博

2000年にオランダのライデン大学で開催された、ヨーロッパ健康心理学会(EHPS)、国際健康心理学会議(ISHPR)に、本明先生をはじめとする先生方と参加しました。日本健康心理学会の代表である本明先生に、各国の先生方が大変敬意をはらっていたのが印象的でした。また、最終日、向学心旺盛な本明先生のリクエストで、ハーグの国際紛争裁判所に、野口先生と3人で見学に行ったことは、一生の思い出となりました。

清水安夫

約25年前、広島大学の日心大会で、当時の本明執行部は臨床心理士問題を継続審議にする旨を提案しましたが、賛否を問うべきであるとする緊急動議が出されました。そのとき、私は執行部が時間をくれと言うのなら待つべきで、禍根を残すような決定はしないほうがよいという趣旨の発言をしました。後で、本明先生が感謝されていたということを仄聞したことを思い出しています。

鈴木直人

先生からは、大学は違っても、先生の教え子であった平井久先生の弟子である私を孫のように思ってください、学会では、長身のお体を少し屈めながら、いつも優しく励ましていただきました。国際学会でも、お泊りになっているホテルの部屋に招いては、海外で鼓舞されている私達の話や冷蔵庫の飲物が空になるまで優しく傾いて聞いてくださったお姿が今でも忘れません。

津田彰

本明寛先生には、早稲田大学大学院で清原健司先生が亡くなられた後、指導教授として大変お世話になりました。私の実家が中野にあったため、懇親会後にご一緒させていただいたタクシーの中で、今思えますと赤面するような随分青臭い考えを申し上げました。しかし、先生は暖かく熱心に耳を傾けてくださったことを思い出します。本明先生、本当に有り難うございました。

長田久雄

だいぶ以前に仙台で健康心理学会を開催した折、大会長をお願いした故・北村晴朗先生と、本明先生のツーショットの機会があり、お二人のご高齢の先生がご一緒の様子は、まさに健康心理学の実践を見るようでした。また、お二人の先生のご関係を感じ深く伺ったことを思い出します。本明先生のご逝去は、心理学における一つの時代の区切りのような、象徴的なもののようによさ感じられます。

堀毛裕子

先生には健康心理学会に入会し、阪神淡路大震災後の対応を発表し始めた頃から薫陶を得ました。早大国際会議場でのストレスマネジメント研修のときは、最前列で応援いただきました。プロチャスカとの対談の機会をいただき、大阪での研修においていただいたこともありました。終生健康心理学をリードされた先生のご冥福を祈ります。

山田富美雄

海外からの弔文

Stevan E. Hobfoll

What I remember most about Dr. Motoaki was his gracious touch. He was always caring, humble and thoughtful of others. When he listened to you, you knew in the deepest sense that you were being heard. He made others feel important and valued. We join in the sorrow especially of his family and our Japanese colleagues, who are indeed friends.

Ralf Schwarzer

I remember him as a great leader who has influenced not only Japanese but also global psychology. I have admired him and have valued the personal contact that we were privileged to enjoy. I will remember him as a great man.

Robert M. Kaplan

I fondly remember our visit to Tokyo and the extraordinary kindness both you and Dr. Motoaki demonstrated to us. He was a great leader and I am glad that he lived such a long and productive life. Please extend my condolences to your colleagues.

Esther Greenglass

I have very fond memories of your visit with him to Toronto, remember, he was talking with my late mother in law, Sawa Hiraki, a meeting of minds. She enjoyed that visit so much. And of course, our wonderful visit to Tokyo where you both so graciously received us. Looking back, Dr. Motoaki did so much for health psychology in Japan.

Kate Moore

I have very fond memories of him as a person of great warmth, generosity and hospitality in addition to my great respect for him as a leader in Japanese psychology and a strong advocate for health psychology.

Yin-Chang Wu

We have followed his steps in developing Asian health psychology, and like to thank him for his great contribution in this area. I agree with you that the sorrow at Dr. Motoaki's passing away is relieved to some extent by thinking that he lived a very long and useful life. However, I just couldn't stop thinking of him and the memory we shared in Tokyo.

Stan Maes

I would like you to communicate to the family of Dr. Motoaki that I am deeply affected by the death of Dr. Motoaki and that he will be remembered all over the world. He had all the qualities a great leader must have: wisdom, patience with others who did not yet reach his level and above all an openness to the rest of the world. I always admired him and I am very sad to miss him. I hope his family will find the strength to cope with this very important loss. My thoughts are and will be with him.

Kyo Heon Kim

We thank and appreciate his long and productive life. I think He was great man not only in Japan but also in Asia and world Health Psychology. I remember his graceful smile and want to resemble his graceful aging. We have to remember and embody his spirit and commitment in Asian Conference of Health Psychology. I would like to give You a warm heart to relieve your deep sorrow!

Jung-Ho Kim

We will not forget his contribution to the foundation and development of Asian Congress of Health Psychology (ACHP). Although we could not see him in the flesh any more, his academic spirit and passion for the progress of health psychology would always be with us. As you know, we will hold the 5th Conference of ACHP in Daejeon, Korea. Dr. Motoaki would be happy that we continue to develop ACHP year by year.

ヘルス・サイコロジスト 追悼号

Health Psychologist 2013.4

発行 2013年3月31日

編集・発行 日本健康心理学会

本部事務局 日本健康心理学会本部事務局

〒169-0801

東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター

TEL 03-5389-3025

FAX 03-3368-2822

ホームページ <http://jahp.wdc-jp.com/>

製作 ダイアモンド社

編集後記

本明寛先生がご逝去されてから4ヵ月になります。最後まで健康心理学会の発展を願っていらしたと伺いました。会員一同ご冥福をお祈り申し上げるとともに、それぞれの分野の研鑽を通して学会の前進に努力することをお約束したいと思います。

このたび「ヘルス・サイコロジスト」の本明寛先生追悼号をダイヤモンド社のご厚意により発行することができました。学会から先生の訃報をお知らせしたときにお寄せいただいた会員の弔文の中から「先生との思い出」を載せました。また、これまで交流のあった海外の健康心理学者にお知らせしたところ、心のこもった弔文をいただきましたので、抜粋した部分から、諸外国の学者が捉えていた先生のお姿を偲んでいただけたらと思います。多くの著書から選んでいただいた名言集の欄、また、短期間で追悼号作成など、ダイヤモンド社および永田正樹氏のご尽力に深く感謝申し上げます。

野口京子(学会副理事長)／大木桃代(広報副委員長)